

資料館だより

令和3年度(2022)通巻第18号

- 水巻町指定文化財「炭鉱就労者の像」の修復事業
- 令和3年度事業報告
- 令和4年度事業予定
- 刊行物紹介
- ギャラリー利用案内

水巻町指定文化財「炭鉱就労者の像」の修復事業

図書館の駐車場に佇むこの像は、太平洋戦争の末期、石炭増産をめざす国家政策の一環として昭和19年(1944)、著名な彫刻家により組織された軍需生産美術推進隊によって全国の主要な炭鉱や鉱山に制作された12体のうち1体です。水巻町の日本炭礦第二礦業所(現中央区)にありました。当時は資源不足で金属などが供出されたため、セメントで造形された珍しいものです。閉山後は炭鉱を物語るシンボルとしての役割を果たし、後世に残すべきものとして平成17年(2005)水巻町指定文化財となり現在にいたっています。ところが、近年になり、像の右足に大きな亀裂があり一部剥離していることがわかりました。制作後70年余りが経過していることから、令和元年(2019)、像全体の保存状態を調査しました。40箇所余りの補修が必要であり、このまま放置すれば、形状を維持するのは難しく文化財としての価値を損なう可能性が指摘されました。これを受け令和3年(2021)7~10月に欄文化財保存活用研究所に委託し修復を行いました。表面に付着した塵や埃を落とし、芯材である鉄筋の錆を抑制する薬剤の塗布、表層強化、亀裂の閉塞、剥離防止のための内部への薬剤注入、コンクリート内部への雨水侵入の防止などの作業を経て蘇ることができました。今年2月には大分大学の田中修二先生からのご講演をいただき改めてその重要性を再認識することができました。もっと多くの方々に知っていただき、これからも大切に保存活用していきたいと思えます。



右足の鉄筋の錆(2017年補修時)



修復作業(2021年)

令和3年度事業報告

■ 蒸気機関車の汽笛作り

日時：5月5日（水）10:30～12:00

場所：水巻町図書館視聴覚ホール

参加者：小学生とその家族5組15名

講師：春風河馬さん

内容：昭和の初めまで水巻には石炭の引き込み線があり蒸気機関車が走っていた。当時のようすをスライドで説明したあと、汽笛を作成した。色などをつけてオリジナルのものができあがり、吹いて音を楽しんでいた。



■ 企画展 郷土の版画家 没10年 「うえだひろし 作品展」

日時：2月2日（水）～2月27日（日）

場所：水巻町図書館町民ギャラリー

来館者：1,700名

内容：うえだひろしさんが亡くなられ昨年で十年を迎えた。改めて業績を振り返り、寄贈いただいた多くの作品の中から力強いタッチの炭鉱の風景、日本の民話などの版画70点余りを紹介した。



■ 歴史講演会 水巻指定文化財 「炭鉱就労者の像の美術的価値」

日時：3月6日（日）13:30～15:00

場所：水巻町図書館視聴覚ホール

講師：大分大学教育学部教授 田中修二さん

参加者：11名

内容：像の補修事業の概要説明後、田中先生より美術史的な視点から時代背景、作者や製作技法など詳しく説明していただいた。同時に制作当時の写真やマケット（石膏での試作模型）なども展示され、理解を深めるとともにその価値を再認識することができた。

